

令和3年4月採用 大卒程度試験 20代 女性職員

現在の仕事内容

私は令和3年4月に甲府地方検察庁に採用され、現在は捜査公判部門事件管理担当に所属しています。

事件管理担当では、公判で使用する事件記録の確認や記録の入力をしています。また、弁護人が事件記録の閲覧に来られることもあるため、その際の手続も行っています。この他にも多くの仕事がありますが、上司の方に教えていただきながら少しずつ仕事を覚えている最中です。

職場の雰囲気

検察庁という機関は今までの生活の中であまりなじみがなく、仕事内容も業務説明会で初めて知ったので、働いていけるのだろうかという不安がありましたが、わからない部分は、上司の方が丁寧に説明してくださるので、安心して業務に取り組むことができています。また、私は出身大学が文学部だったため、法律について詳しい知識はありませんでしたが、研修を通して法律について深く学ぶことができました。そして、職場の皆さんが気さくに話しかけてくださるので、温かい雰囲気の中で仕事ができています。

採用面接などの体験談

私は、犯罪による被害者支援のボランティアに参加した経験や、業務説明会で担当の方から聞いた「地域の安全を守れることにやりがいを感じる」という言葉から、検察庁での業務に興味を持ち、検察庁に官庁訪問をしようと決めました。面接では、そういった志望理由や、大学で学んだことなどを深く質問されました。

国家公務員採用試験受験者へのメッセージ

検察庁は、業務内容が幅広く、事件の手続きにおいて他の部署とも協力が必要ですが、だからこそ職員全体の結びつきも強く、毎日やりがいを感じています。地域の安全を守るため、是非検察庁で働いてみませんか。

令和3年4月採用 大卒程度試験 20代 男性職員

現在の仕事内容

私は、令和3年4月に甲府地方検察庁に採用され、現在は検務官室に所属していま

す。検務官室はいくつかの担当に分かれています。私は、犯歴事務を担当しています。犯歴事務では主に警察や他の検察庁から照会があった者の前科の有無の調査をしたり、有罪判決を受けた者の犯罪登録や、市区町村などに犯歴の通知をするなどの業務を行っています。

警察や他の検察庁の事務官、市区町村の職員など様々な人と関わる機会が多いのも犯歴事務の特徴の1つだと思います。

採用面接などの体験談

事前の対策としては、情報収集のために、可能な限り業務説明会などに参加していました。予備校には通っていませんでしたので、市販の面接マニュアルの熟読、大学のキャリアセンター、ハローワーク、就活支援の施設などを利用して模擬面接を行ったり、公務員試験を受ける大学の友人と面接練習をしていました。

甲府地検に入庁した感想・職場の雰囲気

最初は分からないことばかりでしたが、先輩や上司の方が丁寧に仕事を教えてくれるので、今では安心して働くことができます。また、分からないことがあれば質問しやすい雰囲気ですし、休憩時間には先輩方が気さくに声をかけてくださるので、働きやすい環境だと感じています。

国家公務員採用試験受験者へのメッセージ

私は法学を専攻していませんでしたので、入庁前はとても不安でした。ですが、先程も述べたとおり、入庁前に知識が無いことを不安に思う必要は全くありません。強い正義感を持つ方と共に働けることを楽しみにしています。

令和3年4月採用 高卒者試験 20代 男性職員

現在の仕事内容

私は令和3年4月に甲府地方検察庁に採用され、現在は会計課用度係に所属しています。

会計課用度係とは、各課で必要となる物品を購入・管理をする事務や、郵便の発送事務などの仕事を行っています。検察庁の花形である事件に直接関わる仕事は行わないのですが、職員が業務を円滑に進められるよう、縁の下の力持ちとして庁内を支えている仕事です。私自身、仕事を始めてから数か月しか経過していませんが、用度係の仕事にやりがいを感じています。

採用面接などの体験談

私は昨年の10月頃に採用面接を受けました。質問内容は検察庁の業務内容よりも自分自身についての質問が多かったです。また、面接室の雰囲気は緊張感がありつつも、若干の優しい空気感があり、私自身は受け答えがしやすい環境だと感じました。

職場の雰囲気

職場の雰囲気はとても明るく、入社したての私に対して声をかけてくれたり、研修の時期に差し入れをくださるなど、とても優しい方ばかりです。また、各課の垣根を越えて仲が良いことも働きやすい職場だと感じる要因の一つです。

甲府地検に入庁した理由

入庁を決めた理由はなんとといっても職場の雰囲気の良さとかっこいいと感じる業務内容です。

私は元々検察事務官になることを目指していませんでした。なので、国家一般職の試験は自分の第一志望の就職先の滑り止めとして受験していました。ですが、甲府地検の業務説明会に参加した際に、「私の性格上、第一希望の就職先よりも検察事務官の方が向いているな。」と感じました。なので、両方の受験先から採用通知をいただいたときには迷わず甲府地検に就職することに決めました。

国家公務員採用試験受験者へのメッセージ

検察庁という言葉を見聞きして、「仕事が厳しそう」だとか「職場の雰囲気がピリピリしてそう」というイメージを持たれる方がいると思います。実際に私はそう思っていました。しかし、勇気を出して業務説明会や官庁訪問に参加すると自分の持っていたイメージと現実のギャップに驚くと思います。業務説明会では年の近い先輩職員からリアルな体験談や公務員試験のアドバイスを聞くことができます。

私も含めて、はじめから検察事務官を希望していた受験者はあまりいません。ですが、検察庁に就職して良かったと思っている人はとても多いです。

検察庁の魅力や職場の雰囲気を知ってもらうためにも、受験者の皆さんには一度、業務説明会や官庁訪問に参加していただきたいと思います。

令和3年4月採用 高卒者試験 10代 女性職員

現在の仕事内容

私は、令和3年4月に甲府地方検察庁に採用され、現在は企画調査課情報システム管理係という部署に所属しています。

情報システム管理という部署はなかなか聞き慣れない部署かと思います。

仕事内容としては、検察庁で扱う全てのパソコンの管理や貸与、ホームページの作成等を行っています。

採用面接などの体験談

私は、面接の事前準備としては志望動機と自分の長所・短所しか考えていませんでした。私は、面接はチャンス場だと思っています。筆記では自分の抱いている検察庁への思いを伝えることはできませんが面接では自分の言葉で直接伝えることができるからです。私は参考書等を使って覚えた言葉では伝わらないと思ったので対策をしないで面接を受けました。緊張や不安は沢山ありましたし、言葉が詰まってしまったときもありました。しかし、後に面接官だった方から思いが伝わったよと言葉をかけていただいたことは今でも鮮明に覚えています。面接はとても緊張しますが、自分の言葉で自分をアピールすることのできる最高の場であると思います。

働いてみた感想・雰囲気

働いてみて、裏方で支えている仕事が多いことを感じました。検察庁の顔である検察官・立会事務官が多いのだと思っていましたが、総務課・会計課・企画調査課などの裏方で支えている仕事の多さを働いてみて感じました。全ての課がそれぞれ重要な役割を担っており、全ての職務が遂行されていることによって組織が成り立っていることを強く感じています。

検察庁は張り詰めた空気が漂っている所だと思っていましたがそんなことは全くなく、わからないことは丁寧に教えてくださり、困っていることがあると助けてくださる優しい方ばかりの職場でとても働きやすいです。

国家公務員採用試験受験者へのメッセージ

私は高卒なのですが、在学中は周りの人よりも受験期が早い一人です。焦りや不安を抱えることが多くありました。しかし、いつも近くで支え応援してくれた人の力を借りながら受験を終えました。辛かった受験を乗り越え、今ここで充実した日々を過ごしていることは当時頑張ったよかったです。私は、日々様々な方に助けていただきながら職務にあたっています。検察庁だからこそ得られる知識や責任感を沢山得ることができています。また、社会人一年目で不安なことも多くありましたが周りの方々はとても優しく、私は、検察庁で働くことができていることに喜びを感じています。